

こしば新聞

令和3年1月26日(火) 31号

非常事態宣言下の品川

非常事態を受けて

8日から発令された非常事態宣言。4月以来2回目の宣言となりました。多くの方にとりましてこの非常事態はいつもの平和な日常生活が送ることができず、身体的な課題だけでなく、ストレスのような精神的な課題に直面されている方もいらっしゃると思います。しかしこの非常事態が明けて、コロナが収束した暁には一昨年まで当たり前に過ごされてきた平和な日常は、とても新鮮で清々しく希望に満ちた一日一日となることを強く願っています。私も品川区政に携わる一人として、地域の声を区政に反映させていき、地域の幸福度を上げていけるように努めてまいります。

区民委員会

議会閉会の中、19日に区民委員会が開かれ

- ①品川活力応援給付金の進捗状況
- ②ラインのQRコードを通じて簡略された戸籍関係の届書申請
- ③飲食店・医療従事者への応援キャンペーンについて報告と質疑が行われました。

以下それぞれの報告となります。

①品川活力応援給付金の進捗
これまでの申請件数は22万2794世帯(申請率97.0%)
支給済み世帯数22万2775世帯
昨年4月28日から12月31日まで生まれた赤ちゃんのいる世帯
の申請件数2054世帯
支給済み世帯1758世帯
チャットポット閲覧数9万2620件



②ラインを活用した届書

区役所議会棟3Fにある戸籍住民課における来庁者の滞在時間短縮と待合スペースの混雑緩和を図るためにラインを活用して届書が印刷できるようにいたします。

接触を防ぎ、密を防ぐことで、感染防止にもつながりさらには時間短縮になります。

ラインを活用できる届書の申請書は次の通りです。

- ①印鑑登録証明書
 - ②住民票の写し
 - ③転入・転出・転居届
 - ④世帯変更届
 - ⑤個人番号カード券面記載事項変更届
 - ⑥電子証明書新規発行・更新申請書
- すでに25日から運用が始められました。

③飲食店・医療従事者への応援キャンペーン

営業時間の短縮要請が出される中で飲食店の売上を確保するとともに、医療従事者への感謝のメッセージを発信するために18日から品川区商店街連合会の主催で、区内の41の飲食店が参加をして、お弁当を作り、区内の2つの病院に配達するプロジェクトがスタートしました。

この模様は19日の日刊紙にも取り上げられました。

委員会の報告では、区商連の職員さんが3班に分かれて、レンタカーを利用してそれぞれの飲食店でお弁当を預かり、病院に届けていたとの報告でした。

【お問い合わせ先】
小芝新事務所
〒140-0014
品川区大井5-6-2-101
☎090-6106-2272
Fax03-6303-7037
※ご希望の方には新聞をお届け致しますので、ご連絡願います。



新聞のバックナンバーはHPに掲載しています。

このプロジェクトで区内の配送会社にお弁当の配送を頼むことまで展開できれば食事を作る人だけでなく、食事を届ける人への支援にも繋がります。

飲食店も原材料を作る生産者、配達する人がいてはじめて料理ができます。経済のひっ迫は飲食店だけでなく、生産者、配達業者など多くの関連業者がその余波を受けています。品川区が今後、このプロジェクトを展開するにあたっては関連業者も応援できるように取り組んでもらうようこれからも促してまいります。

裏面に続きます。

行革委員会

20日の行革委員会で、しながわ水族館の運営計画に関することが議題でした。

しながわ水族館は、大森海岸駅に近い南大井2丁目にあります。よく品川駅の水族館と最近では間違えられがちですが、その名前も含めて今後の運営に向けた話となりました。

しながわ水族館は1991年(平成3年)に開設され、翌年度には160万人を超える来場者数を誇りました。

しかしその後は、徐々に入館者数が減少してしまい、2、3年の上昇傾向に転じたこともありましたが、全体的に入館者数は減り続け令和元年度の来館者数は40万人以下となりました。

首都圏には主に7つの水族館があります。

【サンシャイン水族館(豊島区)、すみだ水族館(墨田区)、葛西臨海水族園(江戸川区)、アクアパーク品川(港区)、川崎水族館(川崎市)、八景島シーパラダイス(横浜市)】

しながわ水族館の今後の運営に向けた議論はこれまで主に2つの会議体で行われてきました。

一つは地域の町会連合会や、勝島運河で活動されている、しながわ花海道、宿場まつりを主催している品川周辺まちづくり協議会、しながわ観光協会など品川区で1年間を通じて行事などに取り組んでいる団体を中心となつている会議体(100プロ検討委員会)

と区外から水族館運営のプロフェッショナルの方々を中心とした会議体(100プロ専門家会議)で検討がされてきました。

検討委員会からは、勝島の海に生物を生息させたり、釣りやボートをさせるなど他の品川区の地の利を生かした案や大井競馬場や平和島エリアと繋げた観光ツアーの参加を促す案が出る一方で専門家会議からは

区立水族館としての知的好奇心や社会教育性を追求した水族館を目指すべきであるとの意見が出たそうです。

イルカシヨールがピンチに

水族館の減少傾向に歯止めをかけるためには、立地も含めた運営を考えていく必要があるのではないかと思います。

アクアパーク品川がエンターテインメントをメインにしているからといって、必ずしもそれとは違い、教育的な見地に立ったものでなければならぬといわけてもありません。

私はしながわ水族館が勝島運河に面しているという地の利を生かして、それを前面に出すことで他の水族館とは差別化が図れると考えます。

海から見る水族館という意味で、遊覧船や屋形船とのコラボレーションも可能かもしれませんし、実際に魚と戯れることもできるかもしれません。

これまでしながわ水族館のシンボルでもあったイルカシヨールはシーシェパードに代表される極端な反捕鯨団体が悪辣な活動によって、世界中の捕鯨秩序を乱してきたことが影響してか、捕獲されたイルカを水族館が購入することが2015年から禁じられたことで、イルカシヨールがでなくな

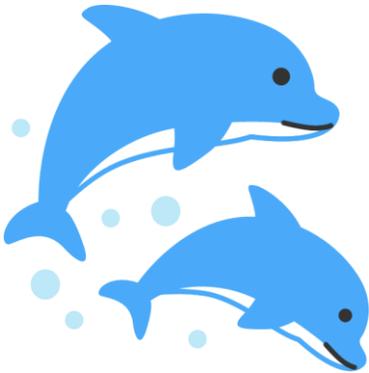
イルカの捕獲は和歌山県の太地町が有名です。江戸時代から続くイルカの捕獲は土地で生活する人にとっては、生きるためでした。

彼らのおかげで水族館では、シヨールを展開するイルカがたくさんのお客さんの笑顔と喝采を浴びてきたのです。

私も6年前に太地町を訪れました。漁協組合でお話を聞いた際に、シーシェパードによる妨害が多くて困るという話を聞きました。

定置網をナイフで切り裂き、イルカ漁で生活をしている地元の方を脅かす行為を断じて許すわけにはいきません。

世界がたとえ反捕鯨であっても日本は伝統としてきた捕鯨の文化を絶やすのではなく、守っていくべきだと思いますし、私も一地方議員として捕鯨の文化を守る活動をしていきます。



地域活動

かねてから大井三丁目の方からT字路に飛び出してくる自転車が多くて歩行者とぶつかりそうになっていたのでミラーをつけてもらいたいとの依頼を受けていました。

担当課との話し合いが進み、工事が決定しました。担当課から連絡を受けまして、つい先日ついにミラーが設置されました。

設置箇所は大井三丁目のロソン横の道を突き当たったT字路とそこを左に曲がり、大村病院の前の道に突き当たるT字路にミラーが設置されました。

地域に根差す議員として地域の方が安全にそして安心して暮らせるまちづくりに寄与していきます。ですので、私も地域をまわるなかで、自分から「ここは危ないかも？」と思った場合には地域の方からお話を伺いますし、一方で、地域の方からもお声かけ頂ければと思います。

